

## 第8回日本臨床検査学教育学会学術大会開催にあたり



第8回日本臨床検査学教育学会学術大会  
大会長 岩谷 良則

第8回日本臨床検査学教育学会学術大会を、平成25年8月26日(月)～28日(水)の間、大阪大学コンベンションセンターと医学部保健学科の学舎で開催します。

今回のメインテーマは『臨床検査の未来を拓く』としました。医療の高度化・複雑化や超高齢社会の到来などの医療環境の大きな変化に対応するため、10数年前から臨床検査技師教育は3年制教育から大学教育へと本格的に移行してきましたが、今育てている学生が定年を迎える40数年後には医療の世界はもっと大きく変化していると予想されます。私たちはその未来を予測し、その変化に適応できる、さらにはその未来を創るような人材を育成することが求められています。今回、臨床検査の未来を拓く人材を育成するという視点で学術大会の内容を考え、**現在から50年後までの医療および臨床検査の現場をイメージできるようなプログラム**を考えてみました。

第1日目の午後のシンポジウム「臨床検査の未来を拓く人材の育成」では、卒前・卒後教育と病院と学会のトップの先生方に、臨床検査の未来を予測し、人材の育成の目標や具体的な方法についてお話しいただき、議論していただきます。

第2日目午前の**学生のための特別企画「キャリア形成支援セミナー」**では、様々な領域で働く臨床検査技師の先輩たちに、履歴や仕事内容を紹介していただきます。

午後の**特別講演「ゲノム科学からみた未来医療」**では、ゲノム科学の泰斗で「RNAの新大陸」発見で著名な理化学研究所の林崎良英領域長に医療の未来を予言していただき、**特別講演「日本発、世界一の診断・医療技術」**では、WT1 mRNA及び免疫療法で世界のがん医療をリードする大阪大学の杉山治夫教授に臨床検査及び医療技術の研究開発の最前線と臨床検査技師の可能性についてご紹介いただきます。

さらに**シンポジウム「認定技師の現在と未来」**では、臨床検査各領域の認定技師制度の詳細とその認定学会/団体をご紹介いただき、卒後教育と学術活動の現在と未来についてお話をいただきます。

第2日目の夕刻には、昨年、教育の質の向上、卒前・卒後教育の連携、研究の推進を目的に設置することが認められた「科目別分科会」の**第1回例会**を開催します。各例会の会長・副会長を選出し、今後の基本方針を決めていただきます。

第3日目午前の**教育研修会**では、**シンポジウム「教育現場における心のケア」**等を開催していただき、最後のランチョンセミナーでは鳥取大学の浦上克哉教授に認知症医療における臨床検査技師の役割の重要性についてお話しいただき、新しい**認知症専門臨床検査技師認定制度**をご紹介いただきます。

この学術大会では、第1日目の最初に**会長講演「予防診断学と技師教育」**で私見を述べさせていただきますが、これをたたき台に「臨床検査の未来を拓く」ための活発な討論と意見交換を行っていただけましたら幸いです。

また、**一般演題**では、学生の発表に対して教育効果を高めるため「**優秀発表賞**」を新たに設けました。午前・午後の各会場で最も上手な発表をした学生約10名を表彰したいと考えています。

多くの方の参加と演題発表を心よりお待ちしております。